

# 論説

2022-6・8



## 「民の竈」が見えぬのか

日銀総裁発言

黒田東彦総裁が六月の議事録で  
「経済の健全性が高まっている」と述べた。信じ難い発言ですね。資金が上がりがんじ中、物価上昇は指数で打撃を受けています。黒田氏は苦しそうに「限界」が述べておなじのです。

黒田氏は「収支が順調に改善され  
入れて居る間に良好な経済環境を  
維持し、資金の本格導入につなげ  
ていけるかがポイント」と述べ  
た。貸上げの実現に力点があるも  
して、物語上壁を越すところ  
ところは勝手な発表だ。

収支が順上げで経済面でのものは  
資金上昇が物価上昇を止める役合  
に貢献される。しかし、厚生労働省  
が七月に公表した四月の雇用動向  
統計によると、前年同月比の実質  
賃金は四ヶ月ぶりに減少した。

マイクライナ学派が資源回収「持  
り家」が正味もさること生活習慣  
の負担は軽減したこと。それが、  
が食費や光熱費など大幅に詰め  
耐え忍んでこらのが実態だ。

黒田氏は先週、田舎で「貧困物  
は室内に任せてしまふ」とも述べて  
いる。革新的な収支の実現を願ひな  
い結果は無理絶句であら。

新型コロナパンデミック拡大に  
伴つて出稼屋など消費は減り、  
貯蓄額が伸びた。田舎における、  
その額は約一十五兆円といふ。

ただ、貯蓄の伸びは、将来に対する  
安心感が増大したからではなく  
られない。貯蓄額の増加が安心感を  
生み、収支の順上に貢献しなかつ  
つてはいかない。田舎業者が「駆け  
離れた」語った分析だ。

日銀は約一万社の企業から業況  
を聞き取る企画短期経済観測調査  
(短調)をはじめ、定期的な調  
査を実施し、景気の変遷を把握し  
て金融政策を立てている。だが、  
経済統計の結果が経済の生活状況  
と離れていたりする。黒田氏は  
なぜか定期的にお聞き取り調査  
に出てこないのがややこしい。  
黒田氏は七月の参院選政金問題  
費余だ。血の上の財産を元々持  
つていて「誰もつぶすたがち」にな  
ることを説明したが、説明しただけ  
では足りない事だ。

黒田氏はまず小売店で出で可  
い人の話を聞き取ってきた。  
その上で、自らの発言が目的を離  
いたか、深く考えてはいない。